

- 1 … 2009年度に向けて
- 2 … 「リーグ戦」特集/U-18リーグ スタート
- 3 … 3種リーグをどうする？
- 4 … 4種リーグの現状
- 5 … 2009年度 各専門委員会活動目標
- 6 … 大会記録
- 10… 埼玉県U-16トレセン韓国遠征報告
- 11… 技術委員会
Artista埼玉 関東フットサルリーグ1部昇格
- 12… インフォメーション・編集後記



●発行/発行人：会長・相川宗一 編集人：高橋 明 ●発行所/(財)埼玉県サッカー協会 住所：〒330-0074さいたま市浦和区北浦和 1-21-18 雁ヶ音ビル204号室
Tel 048-834-2002・Fax 048-834-2004 http://www.saitamasfa.com/(年間購読料 1500円)

2009年度に向けて ～ SFAミッション特別委員会より～

平素より、SFAの活動にご理解とご協力を賜り、感謝を申し上げます。

さて今年度より、この委員会はSFAミッション「特命」委員会から「特別」委員会となり、理事会への答申などを行うべく「SFAのこれからを考える場」として新たなスタートを切ることになりました。

これからのSFAはどうすればいいのかを考え、実際にアクションを起こす部署が無かったことから、こういう組織の改革は急務であり、08年に提示した「5ヵ年計画」のテーマである「組織の拡充」「委員会の活性化」に基づいたものです。

そしてこの「5ヵ年計画」に基づき、SFAミッション特別委員会と皆さんとの情報を共有する場として「連絡会議」を設置しました。5月に第1回目を開催し、顔合わせとともに交流を行いました。ここでは専門委員会、種別委員会、種別連盟、そして4地区の代表者も顔を揃え「埼玉のサッカーの発展のために何が必要なのか」を話し合う場となっています。時には反対意見もあるでしょうが、開かれた会議を行っていきたくと思っています。

さて、今の埼玉サッカーの問題点ですが、重要度及び緊急度から考えても、中学の指導者養成だと考えています。中長期的に考えて、今、4種リーグを楽しんでいる子供たちは、この後すぐに3種に

2009年(2008年から継続して)、埼玉県サッカー協会は、SFAビジョン達成に向けて、次の具体策に取り組んでいきます

①組織の拡充

- ・各市町村の協会との連携を図る
 - a. 情報の共有化
 - b. 協力体制の強化
- ・他競技団体との連携を図る
スポーツの教育的役割や学校スポーツの必要性を提唱し、学校スポーツの重宝につなげる。

②委員会の活性化

- ・ビジョン達成のための具体策を各委員会が提案し、実行に移す
1種、2種、3種、4種、女子、シニア、フットサル、各カテゴリーにおける普及育成、強化活動につなげる

→ SFA運営会議の発足、総務委員会の立ち上げを行うなど、動き出している

進むことになりますから、この3種にスポットを当てなければなりません。ここに予算を割かなければ、埼玉だけでなく日本のサッカーはよくならないでしょう。

この3種においては、学校とクラブ、どちらがいいのかという議論がありますが、中学校にサッカーの指導者が増えれば、学校の部活動もクラブと同等になり、切磋琢磨できると思うのです。もしそうならば、SFAミッションでも触れていますが、学校とスポーツが「いい関係」になることでしょう。

将来的に3種でもリーグ戦が主軸になっていくと思いますが、まずは指導者です。昨年より外部指導者派遣、D級ライセンスの出前講習会を始めました。この09年には、秋を目指して大学生を起用してのインターンシップ制度も始めます。

このインターンシップ制度は、県教育委員会と県内の大学、そしてSFAで行う事業です。将来指導者になりたいという選手にライセンスを取得してもらい、中学に出向いていきます。ここでの指導は大学の単位となり、大学生には大きな利便性があるようになればと期待しています。もちろん、彼らが携わった子供たちはサッカーの面白さを知ってくれるはずですよ。

09年も夢に向かって努力していきます。よろしくお願い致します。

— SFAが最も重視する考え方 —

●4種の育成指導が最も重要

- ・年間を通じて、子どもの公式の遊び場の提供
- ・07年度から始まったリーグ戦を継続、発展を目指す
- ・参加チームを増やすよう努力する
- ・個性を重視した指導体制をつくる
→指導者養成コース、指導者リフレッシュコースの整備

●4種から3種へとつながる指導体制が急務

- ・3種リーグ戦の開催に向けて、先ず、指導者の問題解決を図る
→指導者不足の解消→外部指導者派遣制度の導入
指導のレベルアップ→指導者ライセンス取得のサポート
インターンシップ制度の導入

2009年度 JFA47都道府県協会訪問会議開催

5月15日、さいたま市共済会館にて、表題の会議が開催された。このミーティングは、都道府県協会の役員がJFAの方向性について、さらには相互の関係をより近いものにするのが目的となっている。

今回JFAからは、U-12のリーグ戦について、審判員の育成と強化について、そしてPHQの業務目標が紹介された。またJFAからディスカッションを要請されたために、SFAとしては、「4種トレセンは必要か」というテーマで話をを行った。冒頭、JFAに対し、「トレセンとは？」という質問を投げたのだが、「情報発信する場」という返答があり、坂庭泉ユースダイレクターが「ならば謝らなければならない。トレセンとは発掘、育成、そして強化の場だと思っていた。すみません」と謝罪する場面もあった。4種に関わらず、チームの活動はリーグ戦を主軸にするのであれば、今後トレセンの考え方、捉え方は大きく変わっていくことになるだろう。

選手はトレセンで育つのではない。チームで育つのだ。様々なことを考えさせられた会議であった。

JFAからの参加者4名：安達 健氏(PHQ部長)、根本敦史氏(PHQ部員)、荒谷 潤氏(技術部員)、大谷憲也氏(事業部員)



「リーグ戦」特集／U-18リーグ スタート

～対談・松村道彦 2 種委員長に坂庭泉ユースダイレクターが聞く～
(6月11日に行われました)

まずスタート。さらに検討を

――5月6日にU-18リーグが始まりました。

松村「今、インターハイ予選にリーグ戦と毎週試合が続いています(笑)。リーグ戦だけで、もう4試合消化しています。もしリーグ戦が無ければ、絶対練習試合を組んでいるでしょう。今、このリーグ戦のお陰で拮抗した相手と試合ができてるのはよかったと思っています。

また5人の交代枠を使って、『今週はこうしよう、来週あしよう』と選手を試すことができます。本当に勝たなければならぬとレギュラーを引っ張ってしましますが、試すことができるのがリーグ戦の良さです。確かに今年の結果が下級生に関わりますけどね。とにかくチーム強化を考えると、昨年とは違う流れになっています。

正直、練習試合を頼まれることが多いのですが、中には断れないものがあるんですよ(苦笑)」

坂庭「どこかなあ(笑)」

松村「後輩なら『悪いね』と言えるんですけどね(笑)。それでリーグ戦ですが、やり方はあれこれ言われるでしょうが、立ち上げの年ですので、これで検証してみたいと思っています。リーグ戦終了後にはリーグ運営委員会を開き、来年度以降のリーグのあり方について検討する予定です。その際参加チームにはアンケートなどで意見を伺うようなことも考えています」

――他の顧問の方からはどんな意見をお聞きですか。

松村「インターハイ予選のあるこの時期に、こういうゲームが続くのはいいという話を聞きました。あとこれからU-16リーグが始まりますが、ならば『2年生をどうするか』という声も聞きました。

中にはU-18リーグが終わったら、すぐに会場校とBチームの試合をやっているところもあるようです」

坂庭「一会場一試合ならば、その後練習試合を組めるのですが、4チーム集まってしまうと、試合だけで終わってしまいます。あとは審判ですよ」

松村「練習試合では資格を持つ生徒が審判をすることがありますが、リーグ戦は資格を持つ顧問、コーチがやっています。U-18リーグは2試合以上抱き合わせで、必ずニュートラルな審判が当たるようにしています。U-16リーグはそこを少し緩くして、互いの信頼関係で当該チームの成人審判が行うことも可とします」

坂庭「信頼関係を作れるかどうかですね」

――先ほどの試合数の話ですが、U-18とU-16のカードを一緒にすることはできないのですか？

松村「話は出ましたが、3年と1年で同じステージかどうかはわか

らないということで、流れてしまいました」

坂庭「それができると、Bチームの試合もできるでしょう。そうするとU-18で15分しか試合に出なかった選手も、Bチームの試合では頭から出場できるようになるんですよね」

松村「確かに同じ会場で試合ができればいい。スタッフのことを考えると1か所でやる方がいいんですよ」

坂庭「2チームがベストでしょう。4チーム集まると、試合に出られない選手が出てきますからね」

松村「この間、川越南とBチーム以下の練習試合をしました。『全員出そう』と10時から始めたら、終わったのが18時半(笑)。でも、やるなら、このくらいやらないと。JFAは『リーグ戦ならば複数チームの出場もOK』と言っていますよね」

坂庭「実際、分けて固定してしまうと選手が抜けたりするから大変だと思いますよ」

松村「部員が少なく、10試合持たないチームも出てくるでしょう。ケガ人が出て選手に負担がかかると面白くないのではという話もあります。実際、始めてみましたが、人数が少なく、スタッフのいないチームにとって、リーグ戦がいいのかどうか……」

――先日の運営会議では、横山専務理事からU-18リーグに関する私案(年間を通じて行う日程案)が提案されました。

松村「新人戦の結果でインターハイが決まるというのは気になりましたね。早く決まると3年生のモチベーションが下がるのではないのでしょうか？」

坂庭「いや、リーグ戦を戦う中で選手権という目標があります」

松村「リーグ戦をリンクさせるならば、横山専務理事の案の通り、選手権予選ですね」

坂庭「秋から10チーム18ブロックで2回戦総当たりにして、その合間に大会を入れるというのはできないのですか？」

松村「関東大会予選も総体予選もその年度で代表を決めなければなりません。関東大会は、2月～3月に予選があり4月に準決勝、決勝を行うことは可能です。リーグ戦に関しては06年からいろいろ考えましたが、坂庭さんもご存じの通り、なかなかまとまりませんでしたね(苦笑)」

坂庭「岐阜は6チームでトップリーグをやっているそうです。それも1回総当たりなのに、JFAでは“好事例”だそうです(笑)。ベストはホーム&アウェイでしょうが、今の大会の数では無理でしょうね。海外はこのカテゴリーでも移籍があるからそういうこともできるでしょうが、日本では無理です。やはり大会を整理しないと」

松村「でも、県レベルの高体連があればこれ言ってもね。JFAから話をしてほしいものです。あとリーグ戦との折り合いはシード権

平成21年度埼玉県U-18 S1リーグ

	アルティージャ	埼玉栄	西武台	市立浦和	浦和南	川越南	大宮南	伊奈学園	勝点	得失差	順位
アルティージャ	*	7/12 東洋大 15:00	7/18 東洋大 11:45	7/4 堀崎 15:00	7/15 堀崎 19:00	3○0	3○1	7○0	9	+12	1
埼玉栄	7/12 東洋大 15:00	*	6/28 志木 11:45	7/18 大宮東 10:00	1○0	3○0	未定	5○2	9	+7	2
西武台	7/18 東洋大 11:45	6/28 志木 11:45	*	7/12 西武台 10:00	未定	3●6	4○1	6○0	6	+6	3
市立浦和	7/4 堀崎 15:00	7/18 大宮東 10:00	7/12 西武台 10:00	*	0●1	未定	0△0	1○0	4	±0	4
浦和南	7/15 堀崎 19:00	0●1	未定	1○0	*	7/12 浦和南 10:00	6/28 大宮南 10:00	伊奈学園 10:00	3	±0	5
川越南	0●3	0●3	6○3	未定	7/12 浦和南 10:00	*	7/18 大宮南 10:00	伊奈学園 10:00	3	-3	6
大宮南	1●3	未定	1●4	0△0	6/28 大宮南 10:00	7/18 大宮南 10:00	*	7/12 飯能南 11:45	1	-5	7
伊奈学園	0●7	2●5	0●6	0●1	伊奈学園 10:00	6/27 伊奈学園 10:00	7/12 飯能南 11:45	*	0	-17	8



青「坂庭さんの話の通り、クラブにも試合数の多いところ、少ないところあります。どんな大会にも『出ないといけない』と思っている人が多い。冷静になってじっくりやった方がいいですね。それに学年毎のリーグ戦って、必要ですか？ クラブも人手が足りないんですよ」

坂庭「そういう話こそ、会議で話してほしいですね」

青「試験の最中なのに試合を入れられることもあります。クラブでサッカーをやりたい子が『厳しくてできない』と言うのです。サッカーばかりやっていると、勉強が疎かになります。リーグ戦をやるならば、大会を減らすとかしない」と

鈴木「今、セカンドリーグにいますが（大宮FC）、2試合しか消化できていません（苦笑）」

坂庭「さらにトレセンなんてできないですよ（苦笑）」

鈴木「そう、トレセンも含めて考えないといけませんね」

都所「各地域でリーグ戦を立ち上げてもらえばいいのですが、トップリーグはオフィシャルなので、ここで詰めたいと思います」

鈴木「いろいろなリーグが出てきても、やっていくうちに淘汰されて、残るところが残るのだと思います」

杵渕「西部のケースをモデルにして、あとはニーズに合ったものを考えればいいと思います」

坂庭「いい選手が出てきたリーグが“いいリーグ”ということになるでしょう。また試合数を増やせば、いい選手が出てくるでしょうし、彼らが進学した高校が強くなると思うのです。高校に繋がってほしいのです」

●育成のための「リーグ戦」

鈴木「負けられない公式戦を毎週やっていくことは、プレッシャーのかかることです。それが育成になるのか？という声もあります。ただ思うに『何がなんでも負けられない試合』というのは、プロだけでいいのではないのでしょうか。」

今、20～30代で“指導者”としてメシを食ってこうとしている人は多くなっています。彼らは勝たないとメシが食えないんですね。JFAは指導者が勝利至上主義者だと勝てない、と言いますが、現場では負けられないのです。だから選手に負担がかかり、ゆとりがなくなってしまう。

勝利至上主義のリーグ戦は逆方向だと思います。ですから、育てた指導者、チームを評価していかないと。布さんは『能力別のリーグ戦を』と言っている。それだと負けられない。だから私は『目的別に』と言うのです。我々、育ててナンボだと思いますね」

荒川「表彰については、技術委員会としてアウォーズという形でやりたいと思っています。選手だけでなく、指導者やチームを表彰したい。今年度末には、カンファレンスも予定しています」

坂庭「先日のコースダイレクターの研修会で犬飼さんが『U-12ぐらいまでは町のボランティアコーチが教えて、教えられない事は教えない方がよい』と話されました。技術委員会の面々はムツとしていましたけど（笑）。」

JFAは16歳でプロになることを考えています。その中で勝たなくては行けないと、どの世代もボコボコ蹴るんです。もっと落ち着いて指導することがあっていいと思いますね。それに夏に大会が多いですし」

鈴木「レッズとアルディージャは関東リーグにいますので、たとえば大宮FCに負けちゃいけないというプレッシャーはないんです。J同士での勝ち負けを争っていますからね。」

我々はゆとりを持って楽しめながら、深くサッカーに関わりたいという子供たちを育てたいと思います」

坂庭「日本代表の試合を見ても、全員高体連出身ということもあります。皆さんのところの試合を増やせばいいと思うのです」

柏「既存でやっているものを壊

すことはないと思います。まだリーグ戦をしていないところには、参考にしてもらえるものを提示したいですし、監督さんが選べるようになればいいと思います。次の会議では各地区の人に来ていただき、話を聞けるといいですね」（次回に続く）



クラブ 鈴木 勇氏

4種リーグ～Treasure League～の現状

～秋山和雄・4種委員長に聞く～

2種、3種よりも先行し、今年で3年目を迎えた埼玉の「4種リーグ」。秋山委員長は手応えを感じているという。

「4種リーグがようやく認められてきたという感じがします。参加チームは360と今年も登録チームの7割ですが、定着した感があります。」

ただ、まだ『クラスを分けてほしい』との相談があったり——毎年違うメンバーで戦うのですから、それは無理です。また勝敗のスコアを出したいという声もありますが、それでは選手交代が少なくなってしまうたりします。なぜ結果を○×△で表すのか……。まだこのリーグ戦の趣旨を理解していただけていない方も、少なからずいるのかなという感じもしています。

また勝ち負けにはこだわらず、子供たちを育てる場だということを理解して欲しいですが『選手権があるから』という声もあります。これに関しては、子供たちに目標を与えてあげたいからなんですよ（苦笑）」

保護者は毎年変わる。それだけに、毎年毎年考え方を説明していかなければならない。これは大変なことだ。

今年はSFAからU-10のリーグ戦もやってほしいと言われていますが、現状はどうだろうか。

「一部やっている地区もありますが、全体的にはまだ保留という状況です。U-10となると“キッズ”との絡みもあり、整理する必

要性があるからです。また元々、この年代の試合をトーナメントでやっていた地区があり、それをJFAからの提案でフェスティバルに移行した経緯があるので、これをまた『リーグ戦に』とは言えないという話も聞きます。もう少し現場の意見を聴きながら、検討していきたいと思っています」

今年からJFAは全国でU-12リーグの立ち上げに動いている。埼玉の4種リーグは「Treasure League」と愛称を付けた。全国のお手本のようなリーグになってほしいものだ。



2009年度 各専門委員会活動目標

フェアプレー・規律委員会

フェアプレーキャンペーンプログラムの実施

- 各連盟の責任者・担当者にフェアプレーキャンペーンを実施する（年間計画作成）
 - ①フェアプレーキャンペーン資料作成（フェアプレー精神醸成のための資料作成）
 - ②フェアプレーキャンペーンの実施
- 各連盟に向けて、フェアプレーキャンペーンの実施
- 各連盟に対し、JFA懲罰規定を確実に伝達する。県協会への必要な手続きの方法を伝達する。

財務委員会

- 各種別連盟への事業予算配分にあたって、各種別連盟の登録費（総額）と配分予算との比率の検討を進める。
- 1における予算配分のうち、SFA主催事業への重点的配分を進める。
- 各事業における役員日当の基準化の検討を進める。
- 予算執行状況を的確に掌握するために、4半期毎の試算表作成の実現へ
- 各種別連盟の予算・決算書の検査・分析の着手
- 新公益法人へ移行に伴う会計システムの研究

技術委員会

- トレセン活動の充実
指導者の交流（種別を越えた）、トレセン指導者の資質向上（研修会の実施）
国体がU-16化となり4年目。優勝を目指す。
- 指導者養成・指導者資質向上
養成講習会の充実及びA・B級コーチ推薦、各種講習会の開催、リフレッシュ研修会の充実、U-30若手指導者の育成、中体連外部指導者の派遣
- 普及活動
キッズへのアプローチ、フェスティバルの開催、キッズリーダーの養成、エリートプログラム、巡回指導の充実、女子サッカーへのアプローチ（U-15年代の講習会及び練習会の開催）
- 各チームへのアプローチ
各種全国大会の分析、県内大会の分析、各チームへのフィードバック
- 中学校年代の活性化
外部指導者派遣、インターンシップ制度（大学生の活用）、SFAトライアルの充実
- 医事委員会・科学委員会との連携
講習会などで食育などのパンフレット配布、障害とトレーニング頻度の関係など情報を流す
- 審判委員会、フェアプレー・規律委員会との連携
審判講習会への参加、フェアプレーの奨励
- その他
ホームページの充実（活動報告などの掲載）

審判委員会

- 各カテゴリーの試合を担当できる審判登録者数の確保
- 指導者の育成
- 上級審判員の育成
- 女子審判員の発掘・育成
- フットサル審判員の発掘・育成
- 審判員を取り巻く環境整備（メールアドレスの登録および情報発信、HPの活用）
- 組織の充実と連携（市町協会・各種連盟との連携および情報の共有）
- リスペクトプログラムの推進

広報委員会

SFA NEWS

誰でも閲覧できるようにホームページにアップする予定
ホームページ

トップページでSFAの方針をアピールし、連盟のホームページの質向上を目指す

その他

タウンミーティング、市町協会理事長会議の回数増
埼玉新聞で毎週月曜日「SFAだより」を連載

施設委員会

サッカー施設の拡充（Mission 7）

医事委員会

- 医事運営……各種大会への参加
- 講習会……指導者ライセンス講習会、
AED・救急処置、落雷事故防止
- 拡大医事委員会開催……年4回予定
- 障害事故の統計調査（科学委員会とコラボ）

科学委員会

- 暑熱対策－中高齢者及び低年齢層を中心に
- 食環境の改善－発育期を中心に
- 発育期に関する文献収集及び整理
- 4種年代における外傷・障害の傾向と対策（医事委員会とコラボ）

総務委員会

6月末の理事会で委員長を承認した上で活動予定

大会記録●県内大会

1種・社会人

埼玉県社会人リーグ1部

●5月31日現在

順位	チーム名	勝	負	分	得失点差	勝点
1	パイオニア川越	6	0	2	+18	20
2	坂戸シティー	6	2	0	+13	18
3	浦和レッズアマ	4	2	2	-4	14
4	FC西武台	3	3	2	-3	11
5	アヴェントゥーラ川口	2	2	4	-3	10
6	飯能セゾータス	3	5	0	-2	9
7	越谷FC	1	5	2	-10	5
8	川口SC	0	6	2	-8	2

第39回全国自治体職員サッカー選手権大会埼玉県予選

5月9日～30日 堀崎公園サッカー場他

さいたま市	6	2	本庄市
八潮市	4	3-0	川越市
川口市	3-0	0	東松山市
上尾市	2-1	8	秩父市
狭山市	2-0	1	所沢市

※優勝したさいたま市役所、準優勝の所沢市役所は、6月に開催される南関東予選会に出場する。



決勝 さいたま市役所－所沢市役所

1種・大学

平成21年度総理大臣杯埼玉県大学代表決定戦

4月5日～5月17日 埼玉スタジアム第3他

埼玉工業大学	2	0	城西大学
獨協大学	0	0	
平成国際大学	0	0	
城西大学	4	11	

※優勝した城西大学と準優勝の埼玉工業大学は関東予選会に出場する。



決勝 城西大学－埼玉工業大学

2種・高体連

平成21年度第52回関東高等学校サッカー大会埼玉県予選

4月11日～4月26日 駒場スタジアム他

西武台	2-2	4	0	越谷西
市立浦和	2-1	3	2	大宮南
東農大三	1-0	1	0	大宮東
浦和南	1-2	3	2	埼玉栄
浦和	0-0	2	2	不動岡
南稜	0-0	1	1	正智深谷
本庄第一	1-2	3	2	志木
花咲徳栄	0-0	0	0	伊奈学園

※西武台高校は2年連続5度目の優勝。準優勝の埼玉栄とともに、6月の関東大会（埼玉開催）に出場する。

●平成21年度関東大会 埼玉県予選 総評

東京成徳大学深谷高校 為谷 洋介

平成21年度関東大会埼玉県予選が、4月11日より4月26日まで行われた。プリンスリーグ出場2校（武南・浦和東）を除く30チームでトーナメント戦が行われた。決勝戦は、圧倒的な攻撃力で勝ち上がった西武台と一試合一試合、接戦をものにして勝ち上がった埼玉栄との対戦となった。優勝は西武台、準優勝に埼玉栄、3位に本庄第一・不動岡が入り、東西南北の支部からそれぞれ1チームずつが4強に入った大会であった。

優勝した西武台は前線から激しくプレスを掛け、高い位置でボールを奪い、少ないタッチと早いパス回しでボールを動かし、長短のパスをおりまぜながらピッチを広く使う多彩な攻撃が特徴であった。一方の埼玉栄は、高い個人技をベースに低い位置からビルドアップしながら攻撃のスピードを上げて仕掛けるチームであった。3位の本庄第一はつなぐサッカーを心がけ、チームとして守備意識が高く、守勢なゲーム展開であっても粘り強く勝ち上がってきたが、準決勝では西武台の猛攻に耐えられず敗退した。同じく3位の不動岡は攻撃において中盤から前線にスピードと高さのある選手を揃えゴールを狙い、守備においては全員で粘り強く守り勝ち抜いてきたが、準決勝では埼玉栄にスペースを与えてしまい、守備に課題を残す戦いであった。

大会を振り返り、技術・戦術的に見ると攻撃面において、全体的にパスをつないで攻撃を組み立てようとする姿勢が見られたが、ゴールに向かうためのパスを意識するチームが少なかったように感じる。パスの優先順位を考えながら幅と厚みを持ったポジジョンを心がけてほしい。守備面においては、守備に人数をかけ、ブロックを形成しながらゴールを守ろうとするチームが多かったが、ただ人数を揃えているだけでボールへの寄せが甘く、相手にスペースを与えてしまい、余裕をもって攻撃されてしまう場面が多かったように思う。どこからボールを奪いに行くかを明確にして、相手の自由を奪う積極的な守備の姿勢がほしい。GKに目を向けると、攻撃参加の意識が薄いように感じた。チームでの決まり事もあるかもしれないが、もっと味方の攻撃に加わる、攻撃の起点となるプレーを意識してほしい。

最後に、西武台・埼玉栄、2校の本大会での活躍に期待したい。



決勝 西武台－埼玉栄

3種

第2回埼玉県ユース(U-15)サッカーリーグ

●6月14日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	GRANDE	3	0	0	9	+9
2	ディプロマッツ	2	0	0	6	+3
3	草加Jr	1	1	1	4	-1
4	大宮FC	1	0	0	3	+2
5	狭山Jr	1	0	1	3	+1
6	武南Jr	1	0	1	3	±0
7	FC深谷	0	1	1	1	-2
8	常磐中学校	0	1	1	1	-3
9	HAN	0	1	2	1	-5
10	クマガヤSC	0	0	2	0	-4

第24回日本クラブユースサッカー選手権 (U-15)大会埼玉県予選 ●決勝トーナメント

5月16日～6月13日 NACK5スタジアム大宮他

クマガヤSC	5	3	1	2	FC深谷
コルージャ	0	2	1	1	FC KASUKABE
成立ゼブラ	2	2	0	1	三郷Jr
GRANDE	3	5	0	0	武南Jr
草加Jr	0	1	1	2	大宮FC
カムイJr	3	0	4	3	エステレーラ
東川口FC	1	3	0	2	ディプロマッツ
狭山Jr	5	1	1	0	HAN FC

※優勝したクマガヤSCを含む上位3チームが関東大会に進出。



決勝 クマガヤSC - KASUKABE

4種

第33回全日本少年サッカー大会 埼玉県大会

6月7日～14日 埼玉スタジアム第2他

新座片山FCS	1	3	1	1	南郷FCSS
上福岡少年少女SC	0	2	4	4	大宮アルディージャJ
大袋FC	1	0	1	1	所沢マッシュバッファローズ
熊谷東SSS	2	0	1	1	戸塚FCJ
FCアビリスタ	6	2	1	1	FC浦和
行田ペガサスSSS	0	0	3	0	江南南SS
旭SSS	0	4	0	1	大井少年SC
桶川SSS	0	2	0	1	レジスタFC

※初優勝となった大宮アルディージャジュニアと準優勝の新座片山FCSは、全国大会に出場。FC浦和とアビリスタは関東大会に出場する。



決勝 大宮アルディージャジュニア - 新座片山FCS

女子

第17回埼玉県女子サッカーリーグ大会

●5月31日現在

順位	チーム名	勝点	試合数	勝	分	負	得失差
1	武蔵丘短期大学	15	5	5	0	0	+36
2	尚美学園大学	6	4	2	0	2	-4
3	大宮FCエンジェルス	3	2	1	0	1	-8
4	FC.JAM-G	1	1	0	1	0	±0
5	SEフィリアFC	1	2	0	1	1	-6
6	大東文化大学・楓	0	4	0	0	4	-18
	エルフェン・マリ						
	戸木南ボンバーズ						

第22回埼玉県民総合体育大会・一般女子

5月17日～31日 武蔵丘短期大学他

幸手市	1	5	4	0	ふじみ野市
戸田市	3	2	4	2	さいたま市北部
さいたま市南部	1	1	0	7	熊谷市
川越市	0	5	1	1	上里町
東松山市	9	0	1	1	

※優勝は戸田市。

第15回熊谷市高校女子サッカー大会「めめまカップ」

3月26日～29日 利根川総合運動公園サッカー場、妻沼運動公園

県内チームの結果

8位 埼玉平成、12位 本庄第一、34位 熊谷女子、39位 浦和西、43位 松山女子、44位 花咲徳栄、45位 埼玉栄

※優勝は3年振り2度目の日ノ本学園（兵庫）。

平成21年度学校総合体育大会埼玉県大会

●決勝リーグ

5月9日～16日 本庄第一高校他

Aグループ	本庄第一	埼玉平成	久喜	川口総合	勝点	得失点差	順位
本庄第一	*	○2-0	▲0-0 1PK3	○2-1	9	+3	1
埼玉平成	●0-2	*	○1-0	○6-0	8	+5	2
久喜	△0-0 3PK1	●0-1	*	△0-0 5PK4	4	-1	3
川口総合	●1-2	●0-6	▲0-0 4PK5	*	1	-7	4

※上位3チームは、関東大会に出場する。



第14回埼玉県女子ユース(U-15)サッカー大会

●決勝トーナメント

4月26日～5月9日 埼玉スタジアム第3他

浦和レッズ	12	5	7	浦和レッズ Jrユースレディース
戸木南	0	3	0	
越谷	0	4	0	
JAM-G	0	0	0	
大宮05	16	0	0	
パシール	0	0	0	
吉見	0	0	0	
エルフェン	2	0	0	

※浦和レッズジュニアユースレディースは5年連続の優勝。準優勝の大宮FCエンジェルス05、3位のエルフェン狭山マリと共に、関東大会に出場する。

シニア

埼玉県シニア40南部リーグ

● 6月7日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点
1	東春	4	2	0	14
2	川越	4	0	2	12
3	与野	3	1	2	10
4	浦和	2	4	0	10
5	所沢	2	3	0	9
6	新明	2	3	1	9
7	川口	2	3	1	9
8	NTT	2	2	1	8
9	パルス	0	5	0	5
10	鴻巣	1	2	2	5
11	八潮	1	2	3	5
12	蕨	1	2	3	5
13	大宮	1	1	4	5
14	越谷	1	1	3	4
15	戸田	0	1	4	1

埼玉県シニア40北部リーグ

● 5月10日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点
1	鳩山	4	1	0	13
2	東松山OP	4	0	0	12
3	本庄	4	0	0	12
4	児玉	3	0	1	9
5	秩父	2	2	0	8
6	吉見	2	1	2	7
7	深谷	1	3	1	6
8	東松山P	1	2	1	5
9	めぬま	1	2	2	5
10	熊谷	1	2	2	5
11	セントラル	1	1	3	4
12	行田	1	0	4	3
13	寄居	1	0	4	3
14	小鹿野	0	2	3	2
15	小川	0	2	3	2

埼玉県シニア 50サッカーリーグ

● 6月7日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点
1	浦和市高	6	1	1	19
2	パルス	6	1	1	19
3	NTT	5	2	1	17
4	本庄	5	2	1	17
5	与野	4	4	0	16
6	川越	4	1	2	13
7	大宮	2	4	1	10
8	所沢	2	3	2	9
9	鴻巣	2	3	3	9

順位	チーム名	勝	分	負	勝点
10	浦和	3	0	5	9
11	春越	2	3	3	9
12	蕨	2	1	4	7
13	東松山P	1	4	3	7
14	セントラル	1	4	3	7
15	川口	1	3	3	6
16	深谷	1	2	4	5
17	熊谷	1	1	5	4
18	戸田	0	1	6	1

県60リーグ

●5月3日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	F F C	3	1	0	10	+7
2	パルス	2	0	2	6	-1
3	ポラリス	1	2	1	5	-1
4	Gファイター	0	1	3	1	-5

フットサル

第9回埼玉県フットサル1部リーグ

● 6月14日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	Pure City IMPERIO	3	0	0	9	+9
2	烏天狗	2	1	0	7	+4
3	川越水上公園	1	1	0	4	+3
4	pal'u:wo	1	1	1	4	-2
5	FFC Estrela	1	1	1	4	-4
6	ロクFC	1	0	2	3	+2
7	坂戸龍門	0	1	1	1	-1
8	F & F	0	1	2	1	-5
9	マカブ~	0	0	2	0	-6

第6回埼玉県女子フットサルリーグ

● 6月6日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	FFC Estrela NOVO	4	1	0	13	+9
2	CHU-BAR	4	0	1	12	+21
3	dolce da donna	3	1	1	10	+18
4	武蔵浦和FC	3	1	1	10	+4
5	り～すなぶる。	2	0	3	6	−4
6	口クFC・Grama	1	1	3	4	−12
7	I.F.C/ems	1	0	4	3	−8
8	FILHO Ladies	0	0	5	0	−28

大会記録●県外大会

1 種

関東サッカーリーグ1部

● 6月14日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	日立栃木ウーヴァSC	9	0	1	27	+13
2	さいたまサッカークラブ	7	1	2	22	+11
3	クラブドラゴンズ	7	0	3	21	+8
4	NPO横浜スポーツ&カルチャークラブ	6	1	3	19	+13
5	海上自衛隊厚木基地マーカス	4	2	4	14	+3
6	FC KOREA	2	1	7	7	-21
7	AC アルマレッザ	2	0	8	6	-14
8	ホンダルミノッソ狭山FC	0	1	9	1	-13

関東サッカーリーグ2部

● 6月14日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	ヴェルフェたかはら那須	8	1	1	25	+14
2	S.A 市原サッカークラブ	7	0	3	21	+5
3	tonan 前橋	6	0	4	18	+7
4	東邦チタニウムサッカー部	5	3	2	18	+5
5	エリースフットボールクラブ東京	5	1	4	16	+3
6	神奈川県教員サッカークラブ	2	1	7	7	-9
7	日立ビルシステムサッカー部	2	1	7	7	-13
8	与野蹴魂会	1	1	8	4	-12

関東大学サッカーリーグ2部

●5月31日現在

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得失差
1	順天堂	28	9	1	1	+17
2	東京学芸	24	7	3	1	+7
3	青山学院	23	7	2	2	+8
4	拓 殖	20	6	2	3	+6
5	朝 鮮	17	5	2	4	+6
6	日本体育	17	5	2	4	+4

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得失差
7	桐蔭横浜	15	4	3	4	±0
8	東京農業	13	4	1	6	-7
9	東 洋	12	3	3	5	+4
10	尚美学園	8	2	2	7	-8
11	上 武	8	2	2	7	-14
12	成 蹊	1	0	1	10	-23

総理大臣杯関東代表決定戦

5月31日 埼玉工業大学 3-2 茨城大学

城西大学 3-0 国際武道大学

※ 2校とも「関東代表決定戦」に進出

総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント 関東代表決定戦

6月7日~14日

Aブロック 埼玉工業大学 1-3 東海大学

Cブロック 尚美学園大学 2-1 朝鮮大学校

尚美学園大学 4-3 慶應大学

決勝 尚美学園大学 0 - 3 駒澤大学

Dブロック 城西大学 0-5 東京学芸大学

2種

JFAプリンスリーグU-18

●1部リーグ(第9節終了時点)

順位	チーム名	勝点	勝	負	分	得失点
1	FC東京U-18	21	6	0	3	+8
2	三菱養和サッカークラブユース	20	6	1	2	+15
3	横浜F・マリノスユース	19	6	2	1	+22
4	桐光学園高校	14	4	3	2	-2
5	流通経済大学付属柏高校	13	4	3	1	-5
6	東京ヴェルディユース	12	4	5	0	+3
7	ジェフユナイテッド市原・千葉U-18	12	4	5	0	-6
8	浦和レッドダイヤモンズユース	11	3	3	2	-4
9	鹿島アントラーズFCユース	10	3	5	1	±0
10	前橋育英高校	10	3	5	1	-4
11	矢板中央高校	8	2	5	2	-12
12	鹿島学園高校	1	0	8	1	-15

●2部リーグ(全節終了) ※7月から順位決定戦

Aグループ	勝点	勝	負	分	得失点差	順位
八千代高校	13	4	0	1	+11	1
日本航空高校	8	2	1	2	+1	2
武南高校	8	2	1	2	±0	3
桐蔭学園高校	5	1	2	2	±0	4
國學院大学久我山高校	4	1	3	1	-6	5
桐生第一高校	2	0	3	2	-6	6

Bグループ	勝点	勝	負	分	得失点差	順位
湘南ベルマーレユース	13	4	0	1	+9	1
市立船橋高校	10	3	1	1	+2	2
佐野日本大学高校	7	2	2	1	+2	3
浦和東高校	7	2	2	1	-1	4
鹿島高校	3	1	4	0	-7	5
相洋高校	2	0	3	2	-5	6

女子

プレナスなでしこリーグ1部

●6月14日現在

順位	チーム名	勝点	試合数	勝	分	負	得失差
1	浦和	20	9	6	2	1	+15
2	ベレーザ	17	8	5	2	1	+16
3	INAC	16	8	5	1	2	+10
4	マリーゼ	15	9	5	0	4	+4
5	JEFL	13	9	4	1	4	-6
6	湯郷ベル	9	9	2	3	4	±0
7	新潟L	8	9	2	2	5	-9
8	FC高槻	1	9	0	1	8	-30

プレナスなでしこリーグ2部

●6月14日現在

順位	チーム名	勝点	試合数	勝	分	負	得失差
1	伊賀FC	27	9	9	0	0	+43
2	福岡AN	22	9	7	1	1	+40
3	AS狭山	21	9	7	0	2	+13
4	清水第八	10	9	2	4	3	+2
5	パニーズ	10	9	3	1	5	-9
6	大原学園	8	9	2	2	5	-8
7	J鹿児島	4	9	1	1	7	-18
8	R熊本	1	9	0	1	8	-63

第52回関東高等学校サッカー大会

5月30日～6月1日 熊谷スポーツ文化公園他

Aグループ 1回戦 西武台 2-1 水戸商
準決勝 西武台 1-2 真岡
(延長)

※優勝は山梨学院大学附属高校

Bグループ 1回戦 埼玉栄 2-5 宇都宮白楊



準決勝 西武台-真岡

3種

関東U-15リーグ

●6月15日現在

順位	チーム名	勝点	勝	負	分	得失点差
1	浦和レッドダイヤモンズJY	18	6	0	0	+21
2	柏レイソルU-15	16	5	0	1	+8
3	三菱養和SC栄鴨JY	15	5	1	0	+4
4	横浜F・マリノスJY	12	4	2	0	+10
5	横浜F・マリノスJY追浜	11	3	1	2	+6
6	東京ヴェルディJY	10	3	2	1	±0
7	横浜FC JY	6	2	4	0	-2
8	ジェフユナイテッド市原・千葉U-15習志野	6	2	4	0	-7
9	川崎フロンターレU-15	4	1	4	1	-9
10	鹿島アントラーズFCJY	4	1	4	1	-5
11	大宮アルディージャJY	2	0	4	2	-13
12	FC東京U-15深川	0	0	6	0	-13

第15回関東女子サッカーリーグ

●6月14日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	早稲田大学	6	0	1	18	+20
2	日テレ・メニーナ	5	0	1	15	+15
3	神奈川大学	4	1	1	13	+8
4	浦和レッズJr.Y	3	0	3	9	±0
5	日本体育大学	2	1	3	7	+12
6	FC PAF	1	0	4	3	-7
7	東京女子体育大学	1	0	4	3	-13
8	横須賀シーガルズ	0	0	5	0	-35

シニア

第8回全国シニア(50歳以上)サッカー大会関東予選会

4月26日 栃木県総合運動公園サッカー場

●1組

1回戦 与野シニアFC 3-1 茅ヶ崎五十雀
代表決定戦 与野シニアFC 0-0 日立FC50
(2PK3)

※関東代表は日立FC50と東京サッカークラブ

シニア(70歳以上)サッカーフェスティバル

5月30、31日 広島ビッグアーチなど

埼玉シニア70 0-1 東北70
埼玉シニア70 0-1 中国連合軍FC

■2008年度埼玉県U-16トレセン 韓国遠征報告(高体連)

埼玉県U-16ヘッドコーチ 小茂田佳郁

1. 試合結果

3月27日

埼玉県トレセン 1 (1-1)(0-2) 3 キョンヒ高校

得点者 築場 拓人(昌平)

埼玉県トレセン 2 (2-0)(0-1) 1 ソウル市北部選抜

得点者 清水慎太郎(西武台)・中村 昇平(西武文理)

3月28日

埼玉県トレセン 3 (2-0)(1-0) 0 九里高校

得点者 築場 拓人(昌平)・清水慎太郎(西武台)・清水慎太郎(西武台)

フレンドリーマッチ 1 - 0

得点者 高木宏次朗(伊奈学園)

3月29日

埼玉県トレセン 2 (0-1)(2-0) 1 東北高校

(FCソウル下部組織)

得点者 毛利 元訓(武南)・清水慎太郎(西武台)

遠征MVP: 福田友也(正智深谷高校) チーム内で選出

選考理由: チームキャプテン、DFリーダーとしてDFラインを良く統率した。また、韓国の選手相手に、1vs1の局面では、ほとんど全て勝っていたこと。

2. チームコンセプト

アグレッシブなサッカー

リスクを冒す、積極性、モビリティ(動き)の大きなサッカー

コレクティブなサッカー

素早い攻守の切り替え、コンパクト

中盤で速くボールを動かす

パス&サポート、トライアングル、速い判断

局面で数的優位を作って突破する

2人の連動性、素早いサポート

3. 準備活動(省略)

4. 総括

チームコンセプトへの共通理解を作りながら、個々の1vs1で戦うこと、積極的なプレーをすること、攻守の切り替えを早くして、ハードワークすることを要求していった。

1ゲーム目のキョンヒ戦が最も厳しい相手で、チームとしての守備が厳しく1vs1の局面でもフィジカル面、球際の厳しさ、グラウンドを広く使った中盤でのシンプルなボール回し等、攻守にわたって運動量でも負けていた。埼玉の選手が全ての面でプレーに甘さがあり、球際の厳しさ、攻守の切り替え、突破の局面で自ら仕掛ける意識、局面での状況に応じた動き、動き直しなど、力の差を感じさせられたゲームであった。

2ゲーム目には、比較的余裕のあるゲームであったが、コンセプトの浸透や攻守の切り替えなどシンクロコーチングで、意識付けしていった。

3ゲーム目では、FWの守備、DFの押し上げ、MFの素早いサポート等攻守にわたっての運動量を増やすこと、つねにAlert(研ぎすまされた)な状態を保ち、ボールを受ける前に考えておくこと、攻撃時、ボール保持者の状況に応じたサポートのポジション等を修正してゲームに臨んだ。

4ゲーム目では、KリーグFCソウルの下部組織の高校らしく、プロになる可能性のある選手が数名いるチームで、フィジカル的な強さと同時に、ポゼッションのうまさ、中にスピードのある選手や高さのある選手が入っている好チームであった。前半は、こちらの切り替えが遅く、プレスの掛けどころがハッキリせず何度かチャンスを作られ1失点した。ハーフタイムにFWのチェイシング(きびしいアプローチ)のポイントとボランチのポジショニングと、中盤のメンバーを交代してボールのさばき方を修正してのぞんだ。速い攻守の切り替えからアグレッシブにMF・DFが攻撃参加するようになり、相手の運動量が落ちてきたことに助けられ、逆転して勝利することができた。

全体を通して

選手は積極的にプレーしてくれた。これまでのプレーの甘さ

を感じ、球際の厳しさ、ハードワーク、シンプルで確実なポゼッション、攻守の切り替えの速さを意識するようになった。攻撃での仕掛けのプレーやボール保持者の状況に応じたサポートのポジション等をコーチングした。常にAlertな状態を持続できるよう、意識づけていった。

1vs1の局面では、FWの清水が、ヘディング、ポストプレーなどで互角以上に戦っていた。両サイドのアタッカー今井と築場は、小柄ながら動きが素早く、韓国選手が捕まえるのに苦労しているようでチームのストロングポイントになっていた。DFの福田も、1vs1にほとんど抜かれることはなかった。

チームとしては、ボール際へ人数を割いてボールを奪うコレクティブ(コンパクト)な守備、中盤で少ないタッチボールを動かすプレー、サイドでの積極的なオーバーラップ等は機能していた。

〈成果と課題〉

2種技術委員長 福田 直史

(成 果)

- ・日々チームワークは向上して徐々に個人のスキルが出せるようになった。
- ・ディフェンスから中盤までのビルドアップを中心にボール支配率が向上した。
- ・ファール気味のチャージに慣れてくると徐々にハードワークで戦えるようになった。徐々にどの場所でも1対1の守備が粘り強くできるようになった。

(課 題)

- ・味方を探してプレーしているためパスを読まれてインターセプトされるケースが多い。また、人工芝にあったスピードのパスができずインターセプトされるケースが多い。
- ・攻守の切り替えが遅くカウンターを受けるケースが多い。
- ・周りのサポートが遅いこともあるがプレー判断が遅くて奪われるケースが多い。また、横のサポート(相手選手の間)に入るのが遅くパスを受けられず展開できない。
- ・仕掛けられる選手が少なくグループでの突破を図ることも少ない。
- ・ボールを足もとに入れる選手が多く相手チャージによりボールを奪われることが多い。また、狭いスペースでプレーせざるをえなくなるような選択をしてしまいボールを奪われる。
- ・攻撃に入るところで3人目の動きが少なく選手が孤立するケースが多い。
- ・くさびのパスのあと斜め後ろへのサポートが遅く崩しのパスが出せないケースが多い。
- ・シュートの精度が低く詰めが甘いため得点を重ねることができない。
- ・個性をもっと出して戦えばいいのに周りに気を遣いすぎて遠慮しているプレーが多い。

(生 活)

- ・リーダーシップのとれる選手が少なく気配りのある選手も少なかった。
- ・時間にルーズ・話を聞く姿勢の低さ・行動の遅さが全体的に目立った。チーム行動をする上で各自の明るさが足りなかった。
- ・慣れるまでに時間がかかり3日目あたりからようやくいろいろと良い面が出て来た。
- ・今後、挨拶や礼儀正しさの徹底、そしてマナーの向上を目指して欲しい。



●技術委員会

関東U-16トレセンリーグ

第1節 埼玉 4-4 千葉

第2節 埼玉 5-1 栃木

※ 7月20日の第3節(vs 東京)の結果で、関東ブロック大会の組み合わせが決定する。

祝! 関東フットサルリーグ1部昇格～Artista 埼玉～

08年度の関東フットサルリーグ2部で優勝を果たした Artista 埼玉が、念願の関東1部に昇格し、6月27日に開幕を迎える。その喜びの声と抱負を大石一成監督に聞いた。

—おめでとうございます。埼玉初の1部です。

「ありがとうございます。我々は、08年の最初に母体である高西 FC Kawagoe というチームに、県1部のロクFCの一部の選手が合流して今のチームになりました。それだけお互い拒否反応があるなどギクシャクしたこともありましたが、我々を繋げていたのは、1部に上がるという目標。もし達成できていなければ、バラバラになっていたかもしれません。特に高西時代からいた選手は何度も挑戦していた1部昇格でしたから、その喜びは大きかったです」

—厳しい状況の中でそれも優勝しての昇格。しかし、またここからリスタートですね。

「はい。埼玉初の1部ということもあり、注目されると思います。特に子供たちに接することが多くなると思いますので、より自覚が求められるでしょう。同時にチームの運営力を上げていかなくてはいいけませんし、期待していただいているスポンサーの皆さんには結果で応えなければと思っています。フレッシュは感じています」

—その1年目の目標は?

「まずは全日本選手権に出場し、Fリーグのチームと対戦することです。そしてこの1部で上位に入ることです」

—将来的に“F”という考えはありますか?

「まだまだそんなことを言える立場ではありません。まずは、1部でいい成績を収めることです」

—最後にメッセージを。

「よろしければ、7月11日(第2節)にはウイングハット春日部で試合がありますので、ぜひ見に来てください。また、チームスタッフとスポンサーも募集しております。

<http://www.artista-saitama.com/> をご覧下さい。よろしくお願いします」

—今後の活躍を楽しみにしています。



2008年度SMCサテライト・SFA共同講座を受講して

昨年度末、SMCサテライト講座が関東では唯一、埼玉で開催された。受講者は33名。1種から4種、女子まで幅広い方々に参加していただいた。今回は、その中からお二人の感想を紹介する。今年度もこの講座は開催予定なので、参考にさせていただきたい。

元井 淳 (FC深谷)

今回の講座を受講した理由は大きく分けて2つである。

1つは大学にてスポーツマネジメント学科に在籍していたにもかかわらず、指導の現場であり生かすことができていないと感じたこと。もう1つは様々な形でサッカーというスポーツに関わっている参加者や講師・SFAの方々との交流によって、サッカーに対する思考の柔軟性を身につけたいと考えたからである。

実際に受講して、サッカーというスポーツを多角的に見つめ直すことができ、非常に有意義であった。1つの目的(ゴール)を達成するために、グループでアイデアを出し合い、議論し、共有し、行動し、改善していくという講座での作業は、サッカーのプレーの本質そのものであった。

講座においてお世話になった方々や、受講するにあたり迷惑を掛けたクラブスタッフに感謝したい。

藤久保直樹 (三郷市立瑞穂中学校)

SMCでは、組織の運営能力、スポーツビジネスのマネジメントを学ぶだけでなくとどまらず、自分の目標を実現する具体的な方法を考えさせられました。講師の坂口さんがおっしゃられた「夢を実現するためのプロセス=マネジメントである」ということがよくわかりました。

講座は、全8回の内容で「ビジョン」～「目標管理」という流れで学んでいきました。初めは、緊張して自分の考えや想いを伝えられませんでした。参加者の方々とも徐々に打ち解け、有意義なディスカッションを行うことができました。講座が進むごとに、自分の夢や目標が少しずつ具体的な形で見えるようになりました。終わってみると、目標達成のためのプランができあがっていて、後は実行していく強い意志と行動力が必要なんだと感じました。

今回SMCを受講して、改めて自分の目標やサッカーに対する想いを確認できました。学んだことを生かして、今後のチーム運営やサッカー文化の発展に尽力していきたいです。また、今後もスポーツマネジメントについて引き続き学んでいきたいです。



●JFA キッズサッカーフェスティバル 2009

5月6日、埼玉スタジアム第3グラウンドにて「JFAキッズサッカーフェスティバル2009」が開催された。対象は6歳以下。ゴールデンウィークの最中ということもあり、いつもより参加チームは少なかったが、15チーム300人の子供たちは元気に8人制のサッカーを楽しんでくれた。

だが、ちょっと過剰な応援をされる保護者の方々、勝負に熱くなる指導者も見受けられた。このフェスティバルの主旨を、もっと理解していただく必要があるようだ。

最後に、スタッフとして手伝ってくれた浦和東高校サッカー部の皆さん、ありがとうございました。

(事務局・小豆澤)



インフォメーション

●日本代表、2010年FIFAワールドカップ南アフリカ大会出場決定

去る6月6日、日本代表はウズベキスタン戦との最終予選に1対0と勝利し(9分・岡崎)、4大会連続となる南アフリカ大会への出場を決めました。岡田武史監督が掲げる目標、「ベスト4」にご期待ください。

●埼玉新聞で連載開始

5月から埼玉新聞紙上にて「(財) 埼玉県サッカー協会だより」というコラムが毎週月曜日(火曜の場合もあり)に掲載されています。SFAミッションに基づいたSFAの考え方や具体的な施策について紹介しています。内容に関する問い合わせ、ご感想、リクエストなどありましたら、事務局までご連絡ください。

編集後記

●2010W杯のアジア最終予選で4大会連続4度目の出場を決めた。前回ドイツ大会に続き世界第1号の予選突破だ。目標はベスト4だが、来年6月の本番までどんな秘策を講じることができるか楽しみだ。

6月7日、なでしこリーグ浦和一新潟戦が駒場で開催された。昨年までSFA事務局に勤務していた法師人さんが出場した。選手紹介の際両チームからの大声援がうれしかった。(高橋)

●先日、狭山柏原グラウンドに行きました。小学生・中学生・高校生のサッカーが全て観る事が出来ました。こんな光景が良いですね。(坂庭)

●佐賀の祖母宅に行きました。近所を散歩

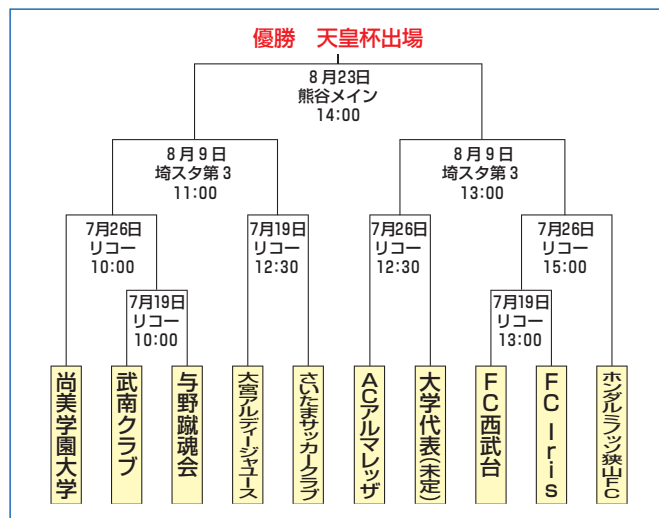
中、神社でおみくじをひいたら「中吉」でした。ホッとしました。・・・ちなみに私、過去に浦和の某所で「大凶」をひいたことがあります★(でも、大吉のほうが多いんですよ。こいち)

●今まで審判の方で活動しておりましたが、4月から事務局員として勤務させていただくことになりました。早くSFAの戦力になるよう頑張りますので、ご支援の程よろしくお願いいたします。(森山)

●先月末まで決算に追われていて、事務所を出るのが最後になる事も多くなったりしましたが、決算が終わった今は、まだ外が明るい時間に帰るようになりました。いつの間にか、こんなに日が長くなってたんですね。(かのう)

●「彩の国カップ」第14回埼玉県サッカー選手権大会のお知らせ

7月19日から8月23日まで熱戦が続きます。ご声援ください。なお今年からU-18リーグが始まったことから、高体連チームの出場は取りやめとなりました。ご理解をいただきますよう、お願いいたします。



●プーマカップ開催について

例年開催されておりますプーマカップ(埼玉国際ユース大会。7月18日~20日)ですが、今回の新型インフルエンザ流行に対応し、スポンサーであるプーマ社の判断により中止することとなりました。なお、JFA・埼玉県の指導を考慮し、SFA主催の国際試合を8月末まで中止または延期することといたしました。

●埼玉国際ジュニアサッカー大会開催

7月24日から26日まで、埼玉スタジアム2002を中心に、「埼玉国際ジュニアサッカー大会2009」が開催されます。海外から8チーム、県外から10チーム、そして県内からは埼玉県東部選抜、埼玉県西部選抜、埼玉県南部選抜、埼玉県北部選抜、さいたま市選抜、川口市選抜の6チームが参加します。熱いご声援をお願いします。

●巡回研修会の開催~4種に向けて~

4種チームの監督・コーチ・選手・および保護者を対象にして、「リーグ戦の考え方」などをテーマにした「巡回研修会」を開催したいと思います。各地区での集まり、チームでの集まりに47FAインストラクターがお邪魔します。ぜひ、事務局(担当・坂庭)までご連絡ください。

なお、C級ライセンスをお持ちの方には、リフレッシュポイント5がつきます。よろしくお願いします。

●最近、「プレーヤー」復帰を目指し、夜の走り込みを始めました。大学時代以来ということもあり、筋肉痛の日々が続きます……。しかし「継続は力なり」。日々、自分に負けずに頑張ります。(といっても、5kmくらいなんです。小豆澤)

●初めまして。4月から埼玉県サッカー協会に勤務する事になりました佐々木亮旦(ささき・りょうた)です。まだまだ分からない事だらけですが、一生懸命頑張ります。(佐々木)

●JFA Road Map より「どんなにそれが大変であっても100年の歴史の中でどこかでやらなければならないとしたら、我々の世代でやってみよう! 子どもたちのために!」。リーグ戦もその1つです。(栗島)